

本調査は前田一步園財団研究助成湿原調査の一部としておこなった。湿原内への立ち入り許可に種々配慮頂いた関係諸機関に感謝申し上げます。また、雨竜町の佐々木純一氏からは「空沼」の水位変動についての情報を頂いた。記して感謝致します。

引用文献

角野康郎, 1994. 日本水草図鑑. 文一総合出版, 東京.
環境庁, 1997. 植物版レッドリスト. 環境庁自然保護局野生生物課, 東京.
倉田 悟・中池敏之, 1985. 日本のシダ植物図鑑 第4巻. 東京大学出版会, 東京.

倉田 悟・中池敏之, 1997. 日本のシダ植物図鑑 第8巻. 東京大学出版会, 東京.
佐藤 謙・鮫島惇一郎, 1985. 高等植物相, 155-205 pp. 暑寒別・天売・焼尻国定公園指定促進調査(自然環境)報告書. 北海道, 札幌.
Takamiya, M., M. Watanabe and K. Ono., 1997. Biosystematic studies on the genus *Isoetes* (Isoetaceae) in Japan. IV. Morphology and anatomy of sporophytes, phytogeography and taxonomy. Acta Phytotax. Geobot. 48: 89-122.

○江崎保男・田中哲夫編「水辺環境の保全—生物群集の視点から—」(朝倉書店, 1998年11月, B5版 232p, 税込み6090円)

ため池, 水田, 用水路, 河川といった身近な水辺に生きる生物を対象に, その生活の成り立ちを明らかにし, 水辺環境の保全のためには何を守らなければならないのかを論じている。水草を扱った章は次の1章だけだが, トンボや水田における生物多様性の議論の中にも水草は登場する。「1. ため池の植物群落—その成り立ち(角野)」は, ため池の水草に関するまとまった総説になっている。

11編の論考のそれぞれに力が入っていて, 専門外のことを勉強する上でもたいへん参考になる内容である。今まで, 水辺環境の保全や復元に関する出版物といえばビオトープやトンボ池づくり, あるいは「多自然型川づくり」の紹介に関するものが多かっただけに, 本書の内容は新鮮に感じられるのではなからうか?

以下に目次を紹介しておく。

1. ため池の植物群落—その成り立ちと保全, 2. ため池のトンボ群集, 3. サギが警告する田んぼの危機, 4. 水田耕作に依存するカエル群集, 5. 水田・農業用水路の魚類群集, 6. 用水路の淡水二枚貝群集, 7. 水田のトンボ群集, 8. 水田周辺の人為水系における水生昆虫の生活, 9. 水田における生物多様性とその修復, 10. 河川の鳥類群集, 11. 河川の底生動物群集—水生昆虫を中心に
(角野康郎)

○佐竹研一編「酸性環境の生態学—酸汚染と自然生態系を科学する—」(愛智出版, 1999年1月, A4版 236p, 税別3080円)

本書は酸性湖沼の生物の特性の概説から始まり, 今後, 酸性雨によってもたらされる陸水ならびに陸上の酸性環境が, さまざまな生物群や生態系の物質循環にどのような影響を与えるのかを, 最新の研究成果を紹介しながら論じている。酸性雨問題の深刻さについて我が国ではいまひとつ十分な認識が広がっていないように思うが, 本書で紹介されている事例をみると, すでに環境の酸性化が現実のものになりつつあることが理解できる。

それぞれの章で分野ごとの今後の課題が示されており, 水草の調査に取り組む者にとっても, 今から資料を蓄積しておくことの重要性を思い知らされる内容になっている。
(角野康郎)